

今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇サンフランシスコの鉄道で塩ビ製座席を採用

■ [随想](#)

◇マリ共和国旅行記（5）－商売－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■ [編集後記](#)

■ トピックス

◇サンフランシスコの鉄道で塩ビ製座席を採用

いつも何気なく乗っている地下鉄や鉄道車両ですが、座席には、一般に、座るところと背もたれのところは、モケットと呼ばれる布で覆われています。時には、しみの付いたシートを見ると、その衛生面を気にされる方がいるかもしれません。最近、アメリカから届いたニュースに、その改善策として、鉄道車両の座席の従来の材質を塩ビ製に替えたという話題がありました。

サンフランシスコとベイエリアを結ぶ鉄道(BART, the Bay Area Rapid Transit)は、鉄道車両の座席の材質（布製、塩ビ製、硬質プラスチック）について、一般市民に評価してもらったところ、81%の人が、車両の座席について清潔であることが最も重要な点であると答えており、さらに、62%の人が、一番気に入った座席は塩ビ製のものだったということです。その結果を受け、この4月から100台の車両の座席の材質を塩ビ製に替えたとのことです。



BARTは1972年にサービスを開始し、平日には37万人が利用します。多くの人が、布製の座席は汚れやばい菌、においが付き易いなど不満をもっていたようです。座席を毎日クリーニングすることもできず、かといって、クリーニングのために取り外すことも容易ではなく、ましてやそのクリーニング費用も高くつくことが問題だったようです。その点、塩ビ製座席は、見た目がよく、耐久性にも優れ、汚れにくく、落書きにも強く、清潔に保て、清掃が簡単なことから清掃コストも安く済むなど、多くのメリットがあります。また、塩ビ製座席は、火災時の発煙性、火災安全性、有害毒性、環境安全性などのBARTの掲げる基準に合致しています。

なお、新しいシートが取り付けられた車両には、車両の中央部ドアに“New Seats on Board”のマーク表示がされており、4/21～5/2の間、メールなどで乗客から感想を求めるシステムを準備し、その結果次第では、更に100台の車両にも広められ



るとのことです。更に、感心させられることには、BARTでは、ホームページ上にQ&Aコーナーを設け、塩ビ製座席採用に当たっての考え方などを公開しており、正當に塩ビを評価している姿勢が伺われます。蛇足ですが、そのアンケート調査表は英語、スペイン語、中国語、韓国語、ベトナム語で用意されているとのことで、アメリカは、多民族国家であることがあらためて認識させられる次第です。(了)

■ 随想

◇マリ共和国旅行記（5）－商売－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

マリ共和国の失業率は、かなり古い調査になりますが2004年に30%。日本でも失業率の高さが問題になっていますが、2010年の調査で5.06%。マリ共和国の失業率は、出生率が高く若者の雇用の場が不足しているため、現在ではもっと高くなっていると考えられています。もともと工業や農業、観光産業などがほとんど発達をしていないため、仕事探しは本当に大変なようです。

少しでも多くの人に仕事を与えるため、マリ共和国政府はワークシェアリングを導入しています。普通、ワークシェアリングと言えば一人当たりの労働時間をできるだけ短くし、その分多くの人に働いてもらうという政策です。もちろん、勤務時間が短くなりますからその分収入は減りますが、就労者数は多くなるので、失業し収入ゼロの人が増えるのよりはましということです。

マリ共和国のワークシェアリングは、労働時間はそのまま、一人当たりの収入を減らしても多くの人を雇用しようというもの。事務所や大きな商店は言うに及ばず、空港、スーパー、レストラン、ホテル、どこに行ってもやたらと従業員がいます。

マリ共和国の人に聞くと、勤め人は収入が低く、いつクビになるか分からない“不安定な職業”だと考える人が多いようです。このため、ほとんどの人が自分でお店を持って商売をしたいと答えます。自分のお店を持つということは、その商売が成功するかしないかというリスクはありますが、一国一城の主であり、商売に対しての知識もでき、もし失敗してもそれまでの知識を元に何度でもやり直せる魅力的な職業であると考えられているようです。商売と言っても、日銭を稼ぐ人から、きちんとした商店を持つ人まで、それこそよくこんな商売を始める気になったと感心するくらい、いろいろな商売があります。

[第3回](#)でもご紹介をしましたが、モータリゼーションが進行しつつありますから、自動車、バイクの修理工場は街中であればどこで故障をしても目の前は修理工場というくらい、どこにでもあります。修理風景を見てみると、壊しているのか、直しているのか判断に迷う修理工場も結構あります(^_^;

逆に、腕のいい(?)修理工場では、様々なメーカーの使える部品を組み合わせで修理していますが、何度も修理を繰り返した車は、見た目はトヨタでも、ボンネットを開けるとベンツのような、日産のような、三菱のようなと全く製造元が不明なオリジナルカスタムカーに変わっています。

ガソリンスタンドならぬガソリン屋さんもあります。日本のようなスタンドもありますが、多くはガラス瓶にガソリンを入れ、道端に並べて売っています。値段を調べてはいませんが、ガソリンスタンドで販売している価格より安いのか、バイクの人が多く利用していました（車だと満タンにするのが大変ですから、ガソリンスタンドを利用していました）。

舗装された道路より、未舗装の、それも乾燥した赤土の道が多いため、1日走ると車は真っ赤に汚れます。砂埃で故障することも多いようです。そこで登場するのが洗車屋さん。これも、至る所にあります。乾燥し、アフリカの太陽が照りつける中、洗車さんは気持ちよさそうに車やバイクを洗っています。



裏通りではありません、高級住宅地の道路です

洗うと言えば洗濯屋さん。クリーニング店ではありません。オーナーは家庭の主婦。マリ共和国の人は暑くて埃も多いせいか頻りに服を着替えます。多分、1日に3回くらいは着替えているのではないのでしょうか。おまけに子沢山。洗濯物の量は半端ではありません。

街のあちこちで洗濯さんは大忙し。洗い終わった洗濯物を干しているところは、もともと色遣いが派手なアフリカの服ですからそれはもうカラフルです。

洗濯物が乾くと、正装はアイロンがけとなります。アイロンがけ屋さんは男性の仕事。もちろん、電気アイロンなどというものは使いません。アイロンの形をした容器の中に炭火を入れ、高熱で一気に皺を取ります。ごしごしと何回もアイロンをかける必要もなく、一回アイロンをかけるときれいに皺はなくなります（何回もかけると、焦げると思います）。

洗濯さんは単価が安いので数をこなさなければいけません。電気洗濯機などはありませんから、朝から夕方まで、洗濯板を使ってゴシゴシと洗っています。食事など作っている暇はありません。

そこで登場するのが宅配弁当屋さん。これも主婦の仕事です。朝から市場で仕入れた食材を大きな鍋で煮たり揚げたり焼いたりで大忙し。これを洗濯屋さんで忙しい主婦や商売をしている人のところに“洗面器”に入れて届けます。

洗濯さんで稼いだお金を宅配弁当さんに払い、宅配弁当さんは市場に食材を買出しに。かなり狭い世界の中で、お金はそれなりに回っているようです。

他にも洗髪屋さん（散髪屋さんや美容院ではありません）もあります。朝から暑く、ちょっと髪を洗いたいなと思った時が洗髪の時。日本の散髪屋さんや美容院と同様、男女を問わず、丁寧に洗ってくれます。

日本ではもう見られなくなりましたが、ドブさらい屋さんもあります。公的機関から依頼されているのか、ドブ周辺にある商店や家から依頼されているのかは分かりませんが、ドブの中に入って全身泥まみれ、ヘドロまみれになりながら一生懸命に仕事をしています。ただ、さらったごみや汚泥を、商店の前であろうが、玄関前であろうが、お構いなしに積み上げてしまうのは如何なものかと。尤も、積み上げられた商店や家の人は誰も気にして

いないのも、凄いところですよ。

ちなみに、積み上げられたごみや汚泥は、金属拾い屋さんが来て、中の金属を探して回収、そのうちに乾いて体積が減った頃、ちゃんと回収に来ています。回収屋さんは濡れたヘドロは回収しません。回収するのは、からからに乾いたヘドロだけです。合理的と言えば、合理的かも。

道は首都バマコでも舗装率が非常に低く、統計データが見つからなかったので私の主観ですが20%前後のような気がします。各国の大使が住むような高級住宅地でも舗装はされていません。道はデコボコ、ドブは溢れ、各家庭で水を多く使用する時間帯によっては道がドブ川のようになります。

夜になると街灯もほとんどないため、懐中電灯がないと泥水やぬかるみに嵌ることになります（地元の人は夜目が効くのか、懐中電灯などを使わず、普通に避けながら歩いていきます）。

このような道を買物などをして大きな荷物を持って歩くのは大変。かといって、タクシーは料金が安いとはいえ、庶民には簡単に使う乗り物ではありません。そこで活躍するのが、宅配便というか、荷物運び屋さん。市場など、荷物運びを頼みそうな人が多そうな場所で待機をして、気軽に、かつ格安で運んでくれます。

荷物運び屋さんは日本のリヤカーを小型にしたようなものを使っています。あまりにも日本のリヤカーに似ているので確認をしたところ、やはりオリジナルは日本のリヤカーでした。それも、輸入されたものではなく、随分前にリヤカーを引っ張ってサハラ砂漠を横断した日本人旅行者がおり、彼が使っていたリヤカーを見て、これは素晴らしいとマリ共和国の道路事情に合わせ小型化したものを自分たちで作ったそうです。

サハラ砂漠をリヤカーを引っ張って横断した日本人旅行者は何人かおられますが、お年寄りの方が20年以上前とおっしゃっていたので、1989年から1990年にかけてサハラ砂漠を横断された永瀬さんという方のことかもしれません。

それにしても、思わぬことが日本文化というか日本の製品を海外に伝えることになるのですね。

(つづく)

前回：[「マリ共和国旅行記」\(4\) -市場-](#)

■ 編集後記

韓国の歴史ドラマを見ています。とにかく長い72話完結です。

中国の歴史についてはイメージがあっても韓国の歴史についてまったく知らないことに気がつき調べるようになりました。

朝鮮王朝は27代(508年)もの長期政権で日本の江戸幕府よりはるかに長い歴史を持っています。韓国の歴史ドラマはフィクションの部分が多いそうですが、時代背景や衣服・食事など文化を知る上でとても参考になります。

数年前に行った韓国も今ならたくさんの王宮や墓稜をめぐり、その治世に触れることができるのではとまた行ってみたいになりました。(リマル)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp